

第5学年 音楽科学習指導案

ろ組 男子16名 女子17名 計33名

指導者 五代 香織

1 題材 リズムにのってⅡ

教材 ◎「かえるのうた～勝手なコーラスより」 草野心平 詩 坪能克裕 作曲（本時主教材）
◎「世界地図のフーガ」 エルンスト・トッホ 作曲（本時主教材）
◎「ケチャ」 インドネシア
オリジナル・ケチャづくり

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

これまでに子どもたちは、第4学年題材「リズムにのってⅠ」において、拍の流れにのってリズムフレーズを演奏したり歌に合わせてリズム伴奏をつくったりする活動を通して、リズムの特徴を感じ取り、それらの組合せを工夫した表現の楽しさを味わってきている。さらに子どもたちは、いろいろなリズムにふれたり、それらの組合せや曲の構成を工夫してアンサンブルに取り組んだりしたいという欲求が高まってきている。

そこで、本題材では、音楽の特徴や仕組みを聴き取り、それらと自己のイメージを関連付けたり、音楽の仕組みを生かしたリズムアンサンブルをつくったりする活動を通して、協働してリズム表現を楽しもうとする態度や、音楽を「問いと答え」、「反復」、「音の重なり」、「変化」といった視点で捉え、リズムの組合せや曲の構成、強弱や速度などを工夫してリズム表現を工夫し、自分なりに音楽のよさを見いだしたりする能力や、音楽の仕組みを用いてリズムアンサンブルをつくる技能を高めることをねらいとして、本題材「リズムにのってⅡ」を設定した。

ここでの学習は、体の様々な部分を使った音を素材として即興的に音を選択したり組み合わせたりして、リズムアンサンブルを工夫する能力を育てる第6学年題材「リズムにのってⅢ」の学習へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

音楽の仕組みを用いてリズムアンサンブルをつくる技能を高めるためには、多様なリズムに親しませたり、音楽の仕組みに着目したりして、それを手がかりに音を音楽へと構成していくことが効果的である。特に、この期の子どもたちには、今までの音楽経験を生かし、いろいろな音楽の中から音楽づくりの発想を得て、見通しをもちながらまとまりのある音楽をつくる喜びを味わえるようにすることが大切である。

そこで、本題材の展開に当たっては、音楽の仕組みに着目した活動ができるようにするために、これまでの経験や学習で触れてきた「音楽」との違いや共通点を問うような課題設定を行う。

具体的にはまず、「かえるのうた～勝手なコーラスより」、「世界地図のフーガ」「ケチャ」を取り上げる。これらの楽曲は、現代的な手法でつくられており、いずれも人間の「声」のみで構成されている。また、「問いと答え」、「反復」、「音の重なり」、「変化」など音楽の仕組みが明確で、音楽を形づくっている要素に着目しやすく、声のみの表現であることから子どもたちによる演奏も可能である。そこで、ここでは、声のみによる作品の面白さを味わわせるとともに3つの作品がどのように演奏されているかを実際に演奏したり即興的に表現したりすることで、音楽の特徴や仕組みに気づき、それらがもたらすよさを見いだす楽しさを味わうことができるようにする。

次に、オリジナル・ケチャづくりに取り組ませる。これは、これまでの鑑賞曲を通して気付いた音楽の特徴や仕組みを生かしてリズムアンサンブルをつくることのできる教材である。そこで、ここでは、音楽の面白さや自分たちでリズムを組み合わせつつっていく過程を学びとることができるようにするとともに、強弱や速度の工夫について互いに考えを高めていくような活動を設定することにより、リズム表現の美しさや快さを味わうことができるようにする。

これらの学習を通して、子どもたちは、「問いと答え」、「反復」、「音の重なり」、「変化」といった音楽を形づくっている要素の働きや特徴について他者と共有・共感しながら、言葉や声のリズムがもつ面白さやよさ、表したい音楽表現を見いだしたりすることで、多様な音楽に親しみ、大切にしていこうとする態度を養うことができる。

このような学習を積み重ねることで、感性が育まれ、協働する喜びを味わいながら、多様な価値を尊重する態度が養われ、豊かな情操が培われていく。

(3) 子どもの実態（調査対象 5年ろ組 男子16名 女子17名 計33名）

本学級の子どもたちの実態は次の通りであった。

①	リズムアンサンブルをつくったり演奏したりすることは楽しいですか。
	はい(32) いいえ(1)
②	その理由を答えてください。（複数回答）
	【「はい」の理由】 ・みんなで合わせると心地いいから(17) ・歌ったり演奏すること自体が好きだから(10) ・みんなでアイディアを出してつくりことができるから(5) 【「いいえ」の理由】 ・みんなと遅れたり合わなかったりして、うまくリズムにのれないから(1)
③	4人で違ったリズムを担当してリズムアンサンブルをつくる時、どのようにつくりますか。
	・みんなのリズムを重ねる(16) ・繰り返す(12) ・ずらして入ったり抜けたりする(6) ・4人のリズムをつなげる(6) ・演奏しながら速さや強さを変化させる(4)
④	リズムアンサンブルをするときにどのようなことに気を付けたら良いと思いますか。
	・出だしを揃える(32) ・周りの音を聴いて速くならないようにする(3) ・自分のリズムを正しく演奏する(18) ・合図を出す人を決めておく(4) ・基本になるリズムの人を決める(2)
⑤	次のリズムを打ちましょう。
	ア  拍の流れにのって正しいリズムで演奏できる(33) イ  拍の流れにのって正しいリズムで演奏できる(26) 拍の流れにのれずリズムが不正確(7) ウ  拍の流れにのって正しいリズムで演奏できる(22) 拍の流れにのれずリズムが不正確(11)

①②から、リズムアンサンブルの楽しさを多くの子どもが感じている。その要因として、音楽活動そのものの楽しさや、みんなで合わせることから得られる心理的な満足感が多く挙げられた。一方「楽しくない」と答えた子どもは、技能に不安があるために自分の演奏に精一杯で、合わせる楽しさを味わうことが難しいことが要因であると考えられる。

③から、リズムアンサンブルをつくっていくことの表現の工夫として、多様な考えをもっていることが分かる。そこで、これらのことを生かして、**範奏を基にして表現の工夫を全体で見いだし**ていくことができるようにする必要がある。

④から、みんなで合わせる際に、出だしやリズムを合わせたり、そのために互いの音をよく聴いたりする重要性に着目している子どもが多い。しかし、強弱や速度といった音楽を形づくっている要素に着目しながら表現を工夫していこうという意識は余り高いとは言えない。そこで、**互いの考えを出し合うことで、よりよいリズムアンサンブルをしていくための観点に気付かせていく必要がある。**

⑤から、多様なリズムを演奏することができるようになってきている子どもがいる一方で、休符の後の裏拍に音符があるようなリズムは、正しく演奏できていなかったり、拍の流れにのれなかったりする子どももいる。そこで、速度を遅くして演奏できるようにしたり、多様なリズムに慣れ親しませたりするような活動を設定する必要がある。

(4) 指導上の留意点

ア 課題把握・課題追求Ⅰの過程では、音楽の特徴や仕組みに気付かせるようにするために、「音楽と言えるか」という課題を設定する。また、3つの作品がどのように演奏されているかを考え、実際に演奏したり即興的に表現したりする活動を設定することで、音楽の仕組みに着目しながらリズムアンサンブルづくりへの見通しをもつことができるようにする。

イ 課題追求Ⅱの過程では、課題追求Ⅰで見いだした音楽の仕組みを生かして、速度やリズム、強弱の変化などを工夫しながら見通しをもって活動ができるようにする。そのために、うまくいっているところやうまくいかないところを全体で取り上げ、必要なことは何かを共有する場を設定し、自分たちの音楽表現に生かすことができるようにする。

ウ まとめの過程では、新たな音楽のよさに気が付き、多様な価値を尊重できるようにするために、題材導入時に用いた鑑賞曲を再度扱い、学んだことの意義を実感できるようにする。

3 目 標

- (1) 言葉や声を用いたリズムアンサンブルやリズムづくりに関心をもち、音楽の仕組みを生かして拍の流れにのった表現になっているかを振り返りながら、進んで活動に取り組むことができる。
- (2) 楽曲の構成や強弱、速度に着目してリズムアンサンブルを工夫したり、言葉や声を用いた表現のよさを見いだしたりすることができる。
- (3) いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴を理解し、拍の流れにのってリズムアンサンブルをすることができる。

4 指導計画（全6時間）

過程	思いや意図を連続・発展させる心の高まり	教材	主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
課題把握	いろいろな言葉が混じっていて、なんだか雑音みたい。これは音楽と言えるかな。	「勝手にコース」「世界地図のフーガ」①「本時」「ケチャ」②	これは「音楽」だろうか。 ○ 「かえるのうた～勝手なコースより」, 「世界地図のフーガ」を聴き, 感じたことや気付いたことを話し合う。 ○ 音楽の仕組み（重なり方）に着目しながら聴く。	○ 音楽を形づくっている要素に着目させるために, 鑑賞教材が音楽と言えるのかを問うことで, 子どもたちの音楽に対するとらえを明確にさせる。 ○ 音楽の仕組みに気付かせるために, 2つの教材の「人の声」「複数」という点に着目させ, これまでの経験や学習で触れてきた「音楽」との違いや共通点を問うことで, 音楽の特徴や音楽の仕組みの存在に気付かせ, 音の重ね方や反復といった要素に焦点化させる。
課題追求①	人の声や, 人数に着目したら, これまで学習した音楽に共通する仕組みや特徴が使われていることが分かってきたぞ。		どんな音楽のルールがあるだろうか。 ○ 「ケチャ」の音楽の仕組みや特徴に着目して聴く。 ○ これまでに鑑賞した教材に使われている音楽の要素の働きが生み出すよさを話し合う。	
課題追求②	学習した曲に使われている仕組みを使えば, おもしろい音楽がつくれそうだ。	「オリジナル・ケチャ」づくり③④⑤⑥	音楽の仕組みを生かして「オリジナル・ケチャ」をつくろう。 ○ グループでテーマを設定し, 前時までに鑑賞した教材に使用されている音楽の仕組みから, 生かしたいものを決める。 ○ それぞれの担当する言葉を決め, リズムや構成に気を付けてリズムアンサンブルをつくる。 ○ 意図した表現になっているか確かめながら, リズムアンサンブルを工夫する。 ・ 始まり方や終わり方 ・ 速度や強弱の変化 ・ 変化させるタイミング 等	○ 各パートの入り方の違いを, 「音楽の仕組み」と関連付けることで, 後の音楽づくりに生かすことができるようにする。 ○ まとまりのある音楽に構成することができるようにするために, リズムアンサンブルを演奏する上でうまくいっていいところやうまくいかないところを取り上げ, うまくいかない理由や, どう演奏したいのかという意図をグループ間で共有させ, 必要なことは何か考えさせる。(例: 始まり方や終わり方, 変化のさせるタイミングなど) ○ 多様な音楽に親しみ, 大切にしていこうとする態度を養うために, 鑑賞の際は要素の働きや特徴について他者と共有・共感しながら, 演奏のよさを見いだすことができるようにする。 ○ 新たな音楽のよさに気付き, 多様な価値を尊重できるようにするために, 題材導入時に用いた鑑賞曲を再度扱い, 学んだことの意義を実感できるようにする。
まとめ	音楽の構成はできたけど合わせるとなかなかうまくいかないな。どうしたら合わせられるかな 楽器を使わなくても, 声だけでこんなにいろいろな表現ができるんだな。これからはいろいろな音楽を聴いてみたい。		互いの表現のよさや面白さを見つけながら, 発表・鑑賞しよう。 ○ 「オリジナル・ケチャ」を音楽の仕組みや特徴に着目して聴き, 自他の表現のよさを味わう。 ○ 再度鑑賞教材を聴き, 学習のまとめをする。 ・ みんなでリズムを合わせるのは心地いい。 ・ 人の声だけでこんなに多様な表現ができるのがすごいと思った。	

5 本 時（1／6）

(1) 目 標

言葉や声による表現の面白さに関心をもち、音楽の特徴や音楽の仕組みに気付きながら進んで鑑賞することができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時では、音楽の特徴や仕組みに気付かせるようにするために、「音楽と言えるか」という課題を設定する。また、それぞれの作品がどのように演奏されているかについて、実際に演奏したり即興的に表現したりする活動を通してとらえさせることにより、言葉のリズムのもつ面白さやよさを味わうことができるようにする。

(3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
課題把握	1 「勝手なコーラス」「世界地図のフーガ」を聴き、感じたことや気付いたことを話し合う。 - 雑音みたいだな。 - 何を言っているか分からない。 2 本時の学習について話し合う。 これは「音楽」だろうか。 - これまでの音楽に使われている要素や仕組みが見つけられたら、音楽と言えるのではないかな。	(分) ↑ 12	○ 音楽を形づくっている要素に着目させるために、子どもの気付きや反応を基にそれぞれの教材が音楽と言えるのかという課題を設定する。 ○ 音楽の仕組みに気付かせるために、2つの教材の「人の声」「複数」という点に着目させ、これまでの経験や学習で触れてきた「音楽」との違いや共通点を問うことで、音楽の特徴や音楽の仕組みの存在に気付かせ、音の重ね方や反復といった要素に焦点化させる。
課題追求	3 互いの考えを出し合いながら、教材を音楽の特徴や仕組みの視点で捉える。 勝手なコーラス 既習の音楽との比較 世界地図のフーガ ・一人につき、一つの言葉をずっと繰り返している。 ・繰り返しながら、声の高さや言葉のリズムが変わる。 【音楽の仕組み】 反復 問いと答え 変化 ・同じフレーズが追いかけて入っている。 ・一人にみんなが呼応するところがある。 ・追いかけるところや一つになる部分がある。 音楽の要素を視点にして考えると、2つの教材共に音楽の仕組みや特徴を聴き取ることができた。	25	○ 音楽の特徴や仕組みについて理解できるようにするために、楽器や曲の構成を視覚的にとらえさせながら鑑賞する場を設定する。 ○ 音楽づくりにつなげるために、演奏人数を問うことで、各パートの始まり方の違いと音楽の仕組みとを関連付けて捉えられるようにする。
まとめ	4 「ケチャ」を鑑賞し、音楽の仕組みや特徴を感じ取る。 - 最初の2曲と同じように、声だけの演奏だ。 - ベースになるような声が聞こえ、全体を支えているようだ。 - 最初は「勝手なコーラス」のように同時に重なっているけど、途中は問いと答えのようになっている。 - 声が大きくなったり小さくなったりしていて、強弱の変化もある。 5 本時の学習のまとめをする。 - 初めは雑音や叫んでいるようにしか聞こえなかったが、音楽の要素を基に考えると、これまでの音楽と同じように繰り返しや強弱の変化がある。	8	○ 使われている音楽の仕組みを確かめ、言葉のリズムのもつ面白さやよさを味わうことができるようにするために、それぞれの作品がどのように演奏されているかについて、身近な言葉や素材を用いて、実際に演奏したり即興的に表現したりする活動を取り入れる。 ○ 自他の考えの質的な高まりを実感させるために、板書やワークシートで最初の考えと学習した後の考えを比較させることで自分やみんなの考えを振り返らせ、自分と音楽との関わりについて意識することができるようにする。